

【中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ】

第1問（配点 24 点）

	(a)	(b)	(c)									
①	売上高総利益率	72 (%)	実	験	的	な	開	店	や	お	土	産
			と	し	て	の	商	品	化	の	成	功
			に	よ	り	収	益	性	が	高	い	。
②	有形固定資産回転率	1.11 (回)	駅	前	や	商	店	街	に	立	地	す
			る	店	舗	の	売	上	が	不	十	分
			の	た	め	効	率	性	が	低	い	。
③	自己資本比率	16.67 (%)	十	分	な	内	部	留	保	が	行	わ
			れ	ず	負	債	の	割	合	が	高	い
			た	め	安	全	性	が	低	い	。	

第2問（配点 30 点）

（設問 1）

(a)	除却損=2,000 平成 27 年度の営業利益=31,500×1.1－(19,500+3,000+6,500×1.1+3,000) =2,000 減価償却費=15,000÷5 年=3,000 ∴ 税引後キャッシュフロー=2,000×(1－0.4) + 3,000+2,000×0.4=<u>5,000</u>	(単位：千円)
(b)	除却損=ゼロ 平成 27 年度の営業利益=31,500×1.05－31,000 =2,075 減価償却費=2,000 ∴ 税引後キャッシュフロー=2,075×(1－0.4) + 2,000=<u>3,245</u>	(単位：千円)

（設問 2）

平成 26 年度末に改装する場合の正味現在価値
$5,000 \times 0.95 + 4,200 \times (0.91 + 0.86 + 0.82 + 0.78) - 15,000 = \underline{3,904}$ (千円)
平成 27 年度末に改装する場合の正味現在価値
$3,245 \times 0.95 + 4,200 \times (0.91 + 0.86 + 0.82 + 0.78) - 15,000 \times 0.95 = \underline{2,986.75}$ (千円)
∴ 正味現在価値が大きい平成 26 年度末に改装するほうがよい。

第3問（配点 30 点）

（設問 1）

(X)	(Y)	(Z)
71.70 (%)	72 (%)	70 (%)

（設問 2）

（構成比） 商品 X : 10,000 / 18,000 商品 Y : 8,000 / 18,000 商品 Z : 0 （求め方） 時間当たりの限界利益の大きいものから生産する。よって、商品 X、Z、Y の順になる。しかし、商品 Z は貢献利益がマイナスであるため生産しない（商品 Z の変動費と個別固定費の発生を回避できる）。 よって、直接作業時間の余力を商品 Y に割り当てることで、営業利益が 16,800,000 円で最大となる。
--

（設問 3）

(a)	商品 X : 11,000 / 16,000 商品 Y : 0 商品 Z : 5,000 / 16,000
-----	---

(b)	（結論） 提案を受け入れない。 （理由） 提案を受け入れた場合は、当初の場合と比べ、販売促進によって商品 Z の貢献利益がプラスに変わり、商品 Y の貢献利益はマイナスに変わる。よって、商品 Y は生産しない（商品 Y の変動費と個別固定費の発生を回避できる）。結果、営業利益が 10,050,000 円で最適となる。 しかし、当初の営業利益に比べ減少するため、提案を受け入れない。
-----	--

第4問（配点 16 点）

	(a)	(b)
①	為替予約	円安になった場合は予約レートでの決済で為替差損の計上を回避でき、円高になった場合は円高のメリットを享受できない。
②	コールオプションの買い	円安になった場合は権利行使によって為替差損の計上を回避でき、円高になった場合は、オプションプレミアム分の損失が生じる。